

# チェルノブイリの子どもたち



チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 117 2020 年 10 月 23 日発行

## 2020 年夏 子どもたちの保養・家族の保養

ウクライナ

★子どもたちの保養



ベラルーシ

★子どもたちの保養

★家族の保養



## 2021 年チェルノブイリ救援カレンダー完成しました お申込み受付中！

詳細は同封のチラシと 12 頁をご覧ください

~~~~~ 本号の目次 ~~~

p.2~6 子どもたちの保養

p.7~9 家族の保養

p.10 里親のページ／ベラルーシの状況

p.11 黒部ドクターのお話

p.12 2021 年カレンダー・販売品のご案内

p.13 募金・救援状況

p.14 事務局から



## 放射線汚染地域に住む病気の子どもたちのための特別保養

2020年夏 ウクライナ・ベラルーシ

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、今年の夏の保養の開催が心配されました。しかし子どもたちを保養に送り出す現地慈善団体と、受け入れ先の施設の努力により、開催時期を予定より遅らせて無事保養を行うことができました。この原稿を書いている現在も、両国の新型コロナウイルス感染拡大は収まっていません。元々の病気のため免疫力の落ちている子どもたちには、今後も十分な注意が必要です。

### ウクライナの子どもの保養

■場所：ヘルソン州ゴーラヤ・プリスタニ地区  
子ども保養施設「ドルフィン」

■期間：2020年8月10日～8月21日（12日間）

■参加者：子ども38人（8歳～16歳／ジトミル州ナロジチ地区及びオヴルチ地区、キエフ市）、  
引率者4人（医師1人、教師2人、保養指導員1人）

■参加者の病名：胆道運動異常症、多発性関節炎、  
胃十二指腸炎、心臓の病気、軟骨芽細胞腫、腎盂炎、  
甲状腺炎、気管支炎、下肢不全麻痺、胸部奇形。

#### <引率者からの手紙>

オヴルチとナロジチを早朝5時にバスで出発し、午前9時ごろキエフに到着。大型バスに乗り換え、さらに目的地まで600キロを12時間かけて移動しました。多くの子どもはこのような大きなバスに乗るのが初めてで、とても喜んで座っていました。長い道のりにも関わらず、車内は快適でしたので楽でした。到着すると、施設の担当者が出迎えてくれて食堂に行き、夕食、それぞれの部屋に入り、シャワーを浴びて寝ました。

施設には私たちのグループのためのレクリエーション指導員と世話係がいました。滞在中は、決められた予定に従い、いろいろな催し物が行われました。経験豊富なレクリエーション指導員により、海岸や水上でさまざまなゲームやリレーレースが行われました。この施設専用のビーチはブイで囲まれているため、海岸では他の人と接することなく安心して過ごすことができました。昼間の一番気温が高い時間帯は海には行かず、子どもたちは手芸教室、折り紙教室などに参加しました。夕方にはスポーツ、ダンス、歌などのコンクールやイベントなどが行われました。

子どもも引率者もみな食事に満足でした。おかゆ、野菜、果物（桃、プラム、スイカ）が豊富にありました。

就寝前には全員が集まり、一日を振り返る時間をもちました。子どもたちと大人たちは思い出を共有したり、翌日の予定を話し合ったりしました。催し物でがんばった子どもは賞品をもらったりしました。一日の予定がいっぱいで、それに積極的に参加すると、子どもたちは心地よい疲れで夜はあつという間に寝てしまいます。

アクアパークへ行ったことは、子どもたちをとっても喜ばせました。チェルノブイリ事故被害者証





明を持つ子どもたちのために、入場料は割引となりました。

滞在した施設は以下のような環境のため、ウイルス感染の心配は少なかった。

1. 施設の敷地は、海辺のすぐ前にある。
2. 施設の出入り口には警備員が常駐し、人の出入りをチェックしている。
3. 子ども用の浜辺には、部外者は立ち入ることができないようになっている。
4. 催し物は自分たちのグループだけで行われる。

このようにすべて、子どもたちが部外者と接触しないよう措置が取られていました。

保養グループの責任者 ニコライ・K

~~~~~

保養所で私たちの滞在した建物には、他のグループはいませんでした。浜辺に行くのも、催し物も、すべて私たちのグループだけでした。新型コロナウイルス感染拡大の中、このような旅行は危険がありましたが、検疫措置のためにずっと家にばかりいた子どもたちは、どこかに出かけ、だれかと交流したかったのです。

私は毎日子どもたちのために教室を開きました。絵画、折り紙、糸で編むブレスレット、粘土などです。毎夜、子どもたちを楽しませるための催しやディスコがありました。全体としてみんなよかったです。穏やかでした。

保養に出かける前、子どもたちのために文房具（画用紙、絵具、鉛筆、チョークなど）を提供してくれるスポンサーを探しました。私はそれを持参し子どもたちにプレゼントしました。みんなとても喜びました。

チェルノブイリ子ども基金と、日本のすべてのスポンサーの皆さんに心から感謝します。保養には、健康に問題のある貧困家庭の子、親のいない子どもも参加していました。この保養は多くの子どもにとって、自分の暮らしている村から抜け出し「海」を目にする唯一の機会でした。

引率者 インナ・S

### <子どもたちの手紙>

★海に行くという、僕の夢をかなえてくれたチェルノブイリ子ども基金の皆さんにお礼を言いたいです。僕のママは保養施設で働いています。パパはチェルノブイリで働いています。（コーリャ・12歳・ラドチツィ村）

★折り紙と、藁で作品を作るのが好きです。海での保養に招待してくれたチェルノブイリ子ども基金のみなさん、ありがとうございます。私はここで新しい友だちを見つけました。（カーチャ・13歳・オヴルチ市）

★海に来たのは生まれて初めてです。毎日いろいろな楽しい催し物があり、毎日海に行きました。食事はとてもおいしかったです。またここへ来たいです。（スラーヴァ・12歳・ナロジチ市）

★毎日の出来事、いろいろなコンクール、海、ディスコ、食事、みんなとてもよかった。今まで海に来たことがなかった。（マクシム・10歳・ラドチツィ村）

★素晴らしい保養でした。食事がとてもおいしかったです。先生たちはみんな優しくてよい人たちでした。日本の皆さん、ありがとうございます。

（カーチャ・12歳・オヴルチ市）



## ベラルーシの子どもの保養

毎年開催されている「腫瘍病・血液病の子どものための保養」、及び、「甲状腺手術を受けた親とその子どものための保養」は、世界、及びベラルーシでの新型コロナウイルス感染拡大による困難な状況の中、私たちは適切な条件を整え実施しました。ナデジダでは、外国パートナー団体の開催する保養プロジェクトの実施時期を変更しなければなりませんでした。外国パートナー団体が開催する予定であった保養プロジェクトの50%は中止となりました。これは私たちの国の好ましくない疫学的状況のためでした。

子ども基金の保養プロジェクトも、7月に予定されていましたが8月に変更しました。この保養プロジェクトの実施を継続しているチェルノブイリ子ども基金に感謝します。また、慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」代表のワレンチーナさんがこのような状況の中、万全な準備を整え、子どもたちを送り出してくれたことに感謝します。

私たちの共同の取り組みにより、保養に参加した子どもたちは健康を強化し、新たな知識を得たり、新たな友人を作ったり、自分と、自分の可能性を信じることができました。その輝く瞳、幸せそうな顔を目にし、私たちが努力して開催した保養が、それぞれの子どもたちの今というだけでなく、将来にとっても、大変重要で貴重なものであることを確信しています。

子ども健康回復センター「希望」

保養受け入れ責任者 ガリーナ・P

- 場所：子どもリハビリ・健康回復センター「ナデジダ（希望）」ミンスク州ビレイカ地区
- 期間：2020年7月9日～8月1日（24日間）
- 参加者：子ども32人（7～17歳／ゴメリ市、レチツァ市、カリニコヴィチ地区、ゴメリ地区）、引率者2人（教師1人、看護師1人）
- 参加者の病名：腎臓がん、目の腫瘍、後腹膜神経芽細胞腫、精巣がん、卵巣がん、リンパ管腫、甲状腺ガン、出血性脈管炎、血小板減少症、先天性無眼症、染色体異常。

子どもたちが集団での生活に慣れて、お互いを知り合い仲良くなり、快適で家庭的な雰囲気を作るように配慮されました。これは教育者、引率者たち、年長の子どもたちのおかげで成功しました。

**食事：**センター内の農場で環境に配慮した農業技術を用いて育てられ緑黄色野菜、果物を含むバランスの取れた食事、果汁入り天然ジュース、センターの食堂で手作りされた菓子類などが提供されました。

**医療：**到着後、子どもは小児科医の診察を受けました。それぞれの子どもは、主な疾患やそれに付随する症状、腫瘍学・血液学専門医の診断書を元に、個々の健康回復プログラムが作成されました。子どもたちは個人の、そしてグループごとの治療を受けました。薬草茶、酸素カクテル、アロマセラピー、歩行療法、マッサージ、治療目的のシャワー・入浴、塩治療、運動療法などです。「感覚の道」という足裏マッサージ効果を目的としたものもありました。

**催し物：**感染症予防の観点から、なるべく野外活動を行うことにしました。子どもの年齢、特性、それぞれの健康状態を考慮に入れたプログラムを作りました。お互いをよく知り合うためのもの、コミュニケーション能力を高めるためのものなどの催し物、ゲーム、コンクールなどが行われました。新たな知識を得られるようなクイズや、仲間同士で課題を解決していくゲームもありました。野外のロープ公園「天国への道」では、みんなで力を合わせて一つのことを達成するという、教育





方法を取り入れたゲーム形式の催し物も行われました。

**環境教育:**エコロジーに関する講座「私たちの周りのエネルギー」が行われ、ゴミの分別収集や、省エネルギーのプロジェクトに取り組みました。教室で子どもたちは、資源の合理的な使用、再生可能エネルギー源のモデルを実際に目にし、バッテリーの作成の歴史と電気の外観について学びました。

**クラブ活動:**木工細工、手芸、折り紙、絵画、陶芸、シンセサイザーなどの教室に参加しました。

**心理カウンセリング:**子どもたちはグループごとや、個別に心理カウンセリングを受けることができました。6人の子どもが個別カウンセリングを受け、対人関係の問題などに取り組みました。

また子どもたちと引率者は、「家族保養」の参加者たちと一緒に、オンラインミーティングでチェルノブイリ子ども基金のスタッフと交流することができて、とても大きな喜びを得ることができました。

アンケート調査結果により、子どもたちはナデジダが大好きで、彼らが再びここに来たいと思っていることを示しました。

小児科医 エレーナ・V

### <引率者たちの感想>

●食堂での食事とおやつ：種類も量も十分で、毎回おいしく、果物、ジュースも多かったです。

●医療サービス：内容が大変素晴らしかったです。子どもたちに、幅広く十分な医療処置が提供されました。子どもの健康状態の特徴が考慮されています。

●野外での活動：天候がよかったため、湖畔での水遊びができました。子どもたちはそれを待ち望んでいて、大変喜びました。監視員がいて、湖畔や水遊び中も安全が保障されていました。

●ナデジダの教育・生活担当者：それぞれの子どもに合わせた対応をしてくれ、必要な時にすぐ適切に対処してくれました。ほぼ毎日、グループの子どもたちがお互いを知り仲良くなれるようにするために、ゲームなど遊びを取り入れ、いろいろな話し合いもしました。子どもたちにはそれらのことすべてが楽しく、みんな仲良くなりました。年齢差のある、さまざまな病気の子どものたちのグループに、2人の教育担当者がいたのはとても大切でした。このような措置は必要だったと改めて確認しました。

●生活面：子どもたちは自分たちの部屋を整え、自分たちでゴミを分別しました。コロナウイルス感染の防止について話し合いが行われたのは、大切なことでした。

●スポーツ・催し物：十分な回数が行われました。多くの催し物が野外で行えたのはよかったです。大人数にならないよう、グループを2つに分けて行ったのもよかったです。

●新型コロナウイルス感染対策：感染を防ぐための対策は十分でした。毎日の検温や手洗いの他、催し物はセンター全体ではなく、各棟で行われ、クラブ活動は人数を減らして行われました。

●心理療法：専門家による高水準な心理カウンセリングが子どもたちに行われました。多くの子どもたちはナデジダに何度も来ています。カウンセラーも子どもたちもお互いをよく知っています。毎年参加する子どももいるため、カウンセラーは



継続的に子どもたちの成長の様子をみてくれていることはとても重要だと思います。

●部屋の掃除と換気：よく行き届いていました。清掃サービスの人たちはとても誠実に、きちんとした仕事をしました。

●まとめ：子どもたちの保養は完全な形で行われました。すべてのことが高水準で行われ、子どもたちはみな大満足で、また来年ナデジダに来たいと言っています。ナデジダの職員とチェルノブイリ子ども基金に、保養の機会をくれて、子どもたちの健康回復をさせてくれたことに深く感謝しています。

引率者 アレーシャ・N、スヴェトラナ・N

### <子どもたちの感想>

★ナデジダでの保養、それは忘れることのできない日々です。ナデジダは私にとって第2の家になりました。この保養に招待してもらったことに感謝しています。ここではたくさんの医療サービスがあり、私の健康回復を助けてくれる人々がいます。さらに、たくさんの種類のクラブ活動、コンクールなどの催し物があります。そこで私は自分の才能を発揮することができます。素晴らしい先生たち、美味しい食事、楽しい雰囲気、これらはすべて忘れがたい思い出となっています。素晴らしい保養と奇跡のようなナデジダに感謝します！  
(アーニャ・レチツァ市・17歳)

★子ども基金のみなさん、ナデジダの保養をありがとうございます。面白い催し物、新鮮な空気、美味しい食事、健康回復を助ける治療など、ナデ

ジダは最高です！僕はここで新しい友人ができました。(ニキータ・ゴメリ市・13歳)

★私はナデジダが大好きです。ここにはたくさんのスポーツや文化的な面白いイベントがあります。バレーボールなどをしながら、多くの時間を野外で過ごしました。食事とてもおいしくて、1日のエネルギーを与えてくれます。きれいな自然環境の中、座っておしゃべりしたり、体を動かして遊んだりできるような場所がたくさんあります。ここにいるといつも楽しくて、することがたくさんあるのです。(リーザ・ゴメリ市・15歳)

★ナデジダでの保養はとても楽しかったです。いろいろな催し物に参加し、治療を受けました。食事はいつもとてもおいしかったです。ぼくはこの保養のおかげでとても気分がよくなりました。この保養をしてくれたチェルノブイリ子ども基金に感謝します。そして、ナデジダの職員の皆さん、僕たちのグループの先生たちに感謝します。(マトヴェイ・ゴメリ市・12歳)

★ナデジダの保養に招待してくれた子ども基金の皆さんに感謝します。保養中にはたくさんの面白い催し物があります。いろいろな種類の食事はとてもおいしいです。よい医療サービスも受けられます。それらのおかげで私たちの健康も、気分もよくなります。そしてとても雰囲気がよいのです。ナデジダに来た時、まるで自分の家のような安心感がありました。一緒に過ごした友だちも先生たちも、みんな前向きで素晴らしい人たちでした。家に帰りたくないほどでした。(ポリーナ・ゴメリ市・16歳)





## ベラルーシ 甲状腺手術を受けた親と子どもの保養

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年、ナデジダで行われた、外国のパートナー団体が開催する親と子どものための保養プロジェクトは2つだけでした。日本のチェルノブイリ子ども基金と、ドイツの「チェルノブイリの子どもたち」という団体のプロジェクトです。国境の閉鎖、特定のCATEGORYの子どもたちの旅行の禁止などの状況を受け、多くの外国パートナーがプロジェクトを中止せざるを得なくなりました。

当初5月に開催される予定のチェルノブイリ子ども基金のプロジェクトは7月に変更になりましたが、無事に終えることができました。

子ども健康回復センター「希望」

保養者受入担当 ガリーナ・P

- 場所：子どもリハビリ・健康回復センター  
「ナデジダ（希望）」 ミンスク州ビレイカ地区  
■期間：2020年7月15日～7月28日（14日間）  
■参加者：8家族20人  
大人12人、子ども8人（ゴメリ市、モーズィリ市、レリチツィ市）

到着後、参加者たちは、小児科医、グループの生活全般の世話をする担当者、カウンセラーたちと顔合わせをし、滞在中の予定が説明されました。小児科医による各参加者への健康診断の結果により、それぞれに対し治療が決められました。また、小児科医による健康に関する3回の講座が行われ、親たちからの質問にも答えました。保養の終わり

に行われる健康診断では、今後必要な治療についての助言が渡されました。

参加者たちには次のような健康回復プログラムが組まれました。

○各人の体調に合わせた日課としての運動（サイクリング、トレーニングジム、運動療法など）

○食堂から提供される6回のバランスの取れた食事、新鮮な野菜、果物、ジュースを多く含む。

○自然要因を使用した医療処置、および理学療法とマッサージの実施。

初日からグループはとても仲が良い雰囲気でした。参加者同士がさらによく知り合うため、パラシュートを使ったカウンセラーの組織した催し物、ゲーム形式、クイズ形式のもの、スポーツ大会などが行われました。

子どもたちはセンターで行われている陶芸、絵画、紙細工などのクラブ活動に参加し、それぞれ創造性を発揮しました。天候がよかったため、センターの敷地内の遊具で遊び、森や湖畔で多くの時間を過ごすことができました。

また、親たちのための心理カウンセラーの教室も行われ、家庭内で起こるさまざまな問題について話し合われました。4家族は個別のカウンセリングを受けました。

アンケートの結果、ナデジダの保養に参加者全員が満足していました。これは私たちにとって大変嬉しいことでした。職員たちと別れる際には、それぞれがあたたかい感謝の言葉を伝えました。

小児科医 エレーナ・V



保養に参加した母親 8 人は、全員が 10 代で甲状腺の手術を受け、7 人が甲状腺機能低下症です。1 人は甲状腺を全て摘出し、手術時に声帯に傷がつき、かすれ声で話す。手術後は生涯甲状腺ホルモン剤を服用し、定期的な検査も受けなければなりません。また子ども 8 人のうち、7 人に疾患がありました。

★ナターシャ・M (37 歳) 副甲状腺機能低下症、骨軟骨症、夫 (35 歳)、息子 (10 歳) 気管支喘息

★ターニャ・M (35 歳) 手術後甲状腺機能低下症、夫 (31 歳) 呼吸器疾患、娘 (4 歳) 心臓の異常

★イリーナ・T (35 歳) リンパ節への転移を伴う甲状腺疾患、夫 (35 歳)、娘 (4 歳)

★ターニャ・B (36 歳)、夫 (34 歳) 虚血性神経障害、息子 (9 歳) 肺炎、慢性胃炎、血管性ジストニア

★オーリャ・P (37 歳) 甲状腺疾患、息子 (7 歳) 慢性鼻咽頭器官炎

★スヴェータ・P (35 歳) 脊椎の骨軟骨炎、娘 (11 歳) 胸腰椎の側弯症、心臓の異常。

★イリーナ・K (40 歳)、娘 (8 歳) 心臓の異常

★イリーナ・K (35 歳)、息子 (9 歳) 気管支喘息

2 人の母親は、かつて子ども基金の「里親制度」の支援を、3 人は「奨学金制度」の支援を受けていました。この 5 人の女性たちは、子どもの頃にナデジダで保養をしたことがあります。「子どもの頃を思い出しとても懐かしい気持ちになり

ました」「ナデジダが素晴らしい施設として今も存在していることがとてもうれしいです」と話しました。3 家族はナデジダに来るのが全く初めてでした。「あまりに素晴らしい施設で、天国のようだ、子どもたちも大喜びで、こんな保養に招待してくれてありがとうございます」と話しました。

### \*\*\* 参加者アンケート \*\*\*

#### 1. ナデジダに来たのは何回目ですか？

初めて：4 家族、2 回目：2 家族、3 回目：2 家族。

#### 2. 滞在中、生活する上での環境、快適さをどのように評価しますか？

「生活環境が良い。」「すべてが素晴らしい。」  
「非常にレベルが高い。」

#### 3. 食堂での食事についてどう思いますか？

「素晴らしい料理。」「おいしいバランスのとれた料理。量も十分。」「高いレベル。」「メニューが各自選べるのがよかった。」「十分な量の食事。子どもたちは残さずすべて食べました。食事はすべておいしかったです。」

#### 4. プロジェクトで提供された医療サービス、医療サポートについてあなたは どう思いますか？

「すべての要求が満たされました。」「すべてが素晴らしかった。」「すべての医療サービスが、診断と付随する疾患に基づいて処方されました。処方されたすべてのコースを受けました。」「優秀で親切なスタッフ。」「マッサージ、温浴療法の時間がもう少し長かったらよかったです。」





**5. 滞在中のプログラムはあなたの希望に応えられましたか？**

「はい、すべてがとても興味深く楽しいものでした。」「楽しい催し物やクラブ活動などがたくさんあり、子どもも母親もとても楽しかったです。」「私たちのお世話をしてくれた職員、心理カウンセラーの人たちが素晴らしかった。」「自分も子どもも、健康を回復したと感じます。」

**6. 最も印象的な思い出は何でしたか？**

「滞在中のプログラム構成（すべてが1日を通して均等に計画されていた）。」「滞在中の豊富なプログラム、イベント。」「全体を通して前向きな気持ちになりました。医療処置、ゲームやコンクールなどの催し物、散歩、それに食べ物-すべてが毎日楽しく、明るく、興味深いものになりました。」「イベント、クラブ活動、雰囲気、自然、食べ物、スタッフの態度。」「医療サービスは私の健康を改善するのに役立ちました。プロジェクト中に実施された活動は、質問に対する答えを見つけるのに役立ちました。医師と心理学者に感謝します。そして私たちのグループを世話してくれた職員のリュドミラさんは私たちを退屈させることがありませんでした。多くの楽しい野外活動がありました。」「子どもたちはとても楽しく過ごしました。子どもたちだけでなく、親たちと一緒に参加できる催し物もありました。」「私は湖へのハイキング、たき火、参加者同士で交流したことが印象に残りました。子ども向けのイベント、サークル、コンテストがたくさんありました。誰もが心を開きふるまうことができました。」

**7. 不満に感じたこと、気持ちがふさぐようなことはありましたか？**

「すべてがとても楽しかったです。雨の日が2日ありましたが、私たちの休日は暗くなりませんでした。」

**8. ナデジダでの滞在中に、子どもの状態や気分に関係する何か変化に気づきましたか？**

「子どもは新しい能力と才能を発見しました（ほぼ毎日）。来年も「ナデジダ」に来ることを望んでいます。」「より自立しました。」「よく眠り、気分がよかったです。」「私の娘は健康を改善し、力を得ました。」「とても積極的で、嬉しそうに過ごしていました。多くの時間を野外で過ごし、自転車に乗っていられたからです。」「前向きな気分でした。帰りたくないと言いました。」

**9. 提案や、改善してほしい点がありますか？**

「さらに多くのクラブ活動、スポーツイベントがあればよい。家族と一緒に音楽活動をしたい。」「スイミングプール!」「プロジェクトを続行してください。母親も子どももリラックスして健康を改善し、親切な人々との交流から大きな満足を得る機会です。思いやりのある医療スタッフ、優れた医師、細やかな配慮をしてくれる心理カウンセラー、素晴らしい教育者たち。ナデジダの職員のみなさんにすべての家族より感謝します。」「ナデジダは理想的な保養施設です。私たちがナデジダに来るために尽力してくれた日本のチェルノブイリ子ども基金と、すべてのみなさまに感謝の言葉を申し上げます。」





## 里親のページ

チェルノブイリ子ども基金では1998年から甲状腺手術後の子どもたちの『里親制度』を開始しました。日本の里親が一人の子どもに対し、月50ドルを2年間支援していただくものです。2年後に再度里親の情報をお伝えし、支援の継続・終了を里親に決めていただきます。現在は、さまざまな腫瘍病、血液病などの子どもたちが支援を受けています。前号（2020年6月号）で募集した3人の子どもの里親は決まりました。新たに支援の必要な子どもの情報がベラルーシの団体から届いています。ご関心のある方は事務局へご連絡ください。詳しい資料をお送りします。

\*\*\*\*\*

**N・ミーシャ** 2014年生まれ ゴメリ市  
両眼の網膜芽細胞腫（目のがん）。1歳で発病。化学療法9クールと、近接照射両方を受けた。その後、必要な治療器具がベラルーシの病院にはなくなり、治療が続けられなくなった。そのため募金で4500ドルを集め、ロシア・モスクワ市の病院に入院。2016年2月に手術を受けた。左目は全く見えない。手術後は3か月に一度通院。治療はすべて有料、通院のための交通費もかかり、家族の負担は大きい。

**B・アレクサンドラ** 2012年生まれ ゴメリ市  
首の両側のリンパ節の未分化大細胞リンパ腫瘍。小学校1年生になって2週間後に発病。高熱が続く肺炎と診断されたがよくなり、集中治療室で治療。リンパ節の生検の結果、病名が確定し、小児がんセンターへ送られた。6ブロックの化学療法を受けた。現在は、学校に通いながら、3か月に一度、定期検査を受けている。妹が2人いる。

ベラルーシの慈善団体「困難の中の子どもたち」  
代表のワレンチーナさんより  
「ベラルーシの子どもたちを支援してくださっている日本のみなさんにお礼を申し上げます。こちらではコロナウイルスによるパニックが続いています。私の親しい友人も感染し入院しています。里親から支援を受けている子どもの祖母も感染しました。このような状況が一体いつまで続くのかと不安に思います。」（2020年10月13日）

## ベラルーシの状況について

ベラルーシで8月9日に行われた大統領選挙の結果、現職の再選が宣言されました。その後、選挙の不正疑惑から、市民の抗議行動が続いています。その中で、武器を持たない平和的なデモの参加者が多数拘束され、警察や特殊部隊が暴力をふるっています、これに対しても、多くの市民が一層反発を強めています。コロナウイルス感染の問題と、この間の政治の混乱は、今のところ子ども基金の救援活動への影響はありませんが、今後の状況を見守らなければなりません。

~~~~~  
毎年子ども基金の保養プロジェクトが行われているベラルーシの子ども健康回復センター「ナデジダ」から以下の連絡が届きました。

「8月18日、13時、ナデジダの職員たちは、平和な市民に対する弾圧、不正な選挙に抗議し、政府の不信任に連帯する行動を行いました。職員たちは、自分たちの国で起きていることに無関心ではできませんでした。子どもセンター施設内の入り口のところで花、風船、プラカードを手に整列し、賛同する全ての職員の署名がされたアピール文が読み上げられました。」

~~~~~  
ベラルーシの各地では、政権に抗議するデモが行われています。かつて子ども基金の里親支援を受けたり、保養プロジェクトに参加したりした若者たちの中には、その様子の写真をSNSにアップしている人たちもいます。

★リューバ（30代・女性）デモに参加している写真では、ベラルーシの古い国旗（白地に赤い線）を持ち、夫と子ども、友人の女性2人とともに笑顔で写っています。手にしているプラカードには手書きで「悪いおじさん」（大統領のこと）は出て行って！」と書いてあります。

★ワーニャ（20代・男性）「僕たちの国では本当にひどいことが起こっています。しかし当局や警察の対応にもかかわらず、人々は外に出て公然と意見を述べることを恐れていません。みながこのように団結し、世界の多くの人々の注目を集めていることを嬉しく思います。」



## 黒部ドクターのお話

### 新型コロナウイルスのパンデミックはなぜ起きたか

1. 新型コロナウイルスはスペイン風邪の再来だ。主役は新型コロナウイルス。舞台は人種差別と貧困と格差社会の世界情勢にあり、人々の免疫は低下した。気候の影響もありパンデミックになった。
2. 伝染病学者バーネットは、インフルエンザの流行を分析し、「パンデミックの起きる条件は、第1に適当な気候条件、第2に住民の大多数の免疫水準が低いこと、そして第3にそこに適当な型のウイルスが存在することである」という。
3. まさにスペイン風邪はそれに該当した。世界中の人々の免疫水準が低下し、そこに変異したインフルエンザウイルスが出現し、冬から始まった。スペイン風邪は1918年に起き、その時世界の人々は免疫が低下していた。1914～1918年の世界第一次大戦、1917年10月のロシア革命と、中国、トルコ、メキシコ、アジア、南アでの革命や民族独立運動。日本も米騒動など世界中が戦乱と飢えにさらされた。戦争に動員され、革命に参加した若者たちがスペイン風邪で命を落とした。
4. 第二次世界大戦の時は、感染症が流行したが、パンデミックを起こす適当なウイルスは登場せず。その後も香港風邪、2009年新型インフルエンザもパンデミックにはならなかった。
5. 今世界の人々の苦難の状況が成立した。第1に異常な気候。凍土や北極の氷の溶けだし。森林火災、砂漠化、集中豪雨と洪水、サバクトビバッタの大発生。そして冬12月の武漢から始まった。第2に、世界中に「ブラックライブズマター」が広がり共感呼んだのは、人種差別と貧困と格差社会が世界に広がり、世界中に内戦、干渉戦争、内乱、政治的経済的混乱が広がっていたから。大量の移

民、難民、農村からの出稼ぎ労働者が都市の貧困層を形成した。それが世界的に形成され、自然免疫の低下した人々が大量に発生した。第3に、そこに新型コロナウイルスが登場した。適度に強く、致死率が高くなくその為に感染力が強い、未だ遭遇しなかったウイルスが。

6. 新型コロナウイルスは現実の世界を明らかにした。今の世界には構造的な不平等があること。飢餓、貧困、暴力、人種差別、家父長制、女性差別、宗教差別（ムスリムほか）、カースト制度がある（アサド・レーマン）。問題は資本主義の暴力性であり、搾取主義の論理である。今労働者が、自分たちは不可欠であると同時に使い捨て、犠牲にされていると訴えている。新自由主義は、第二次世界大戦後に労働者が獲得したものを解体するための階級闘争だ（ナオミ・クライン）。世界のNGOはテーマ別にわかれた為に現実世界を見えにくくした。

明らかにされたのは次のことである。①格差社会を生んだのは資本主義にあること（特に新自由主義）。それは対等な取引をしても、格差社会が生じる市場経済に内在する不平等。②内戦と戦争。新興諸国の経済の破綻と腐敗。社会（文化、経済、宗教）の発展で社会的権力構造の違いによる紛争と戦争。③工業の発展と農業の衰退。出稼ぎ労働者の大量の発生と大都市のスラム形成と公害。④医療が人間性を失っていること。うつ病と自殺と感染症を医療ではなく、社会的政策即ち政治で減らしたのが北欧諸国（医学は社会科学である—白木博次）。⑤ストレスによる免疫力の低下（セリエ）。病気の重症度は人間の側の問題であり（デュボス）、精神的要因が関与している（心療内科）。⑥対策は学生と貧困者、貧困世帯に経済援助すること。

黒部 信一  
すずしろ診療所所長  
小児科医師

\*\*\*\*\*

## 2021 年チェルノブイリ 35 周年救援カレンダー

\*\*\*\*\*

チェルノブイリと福島の子どもたちの救援にご協力をお願いします

チェルノブイリ救援カレンダー、2021 年版が完成しました。保養に参加した子どもたちと、日本の里親から支援を受けている子どもたちの写真で構成されています。今回も場所をとらないコンパクトなサイズです。ご自宅で、職場で、またご友人などへのプレゼントにもぜひご活用ください。ご注文をお待ちしています。



### 【その他の販売品】

◆マトリョーシカのマグネット／キーホルダー 各 500 円

◆ベラルーシ製リネクロス  
サイズ大 (49 cm×90cm) 900 円  
サイズ小 (49 cm×70cm) 800 円

※送料別 (実費)

子ども基金HPに画像を掲載しています。

- カレンダー 定価 800 円 送料別 (9 部まで 200 円) (10 部以上 : 1 部 700 円 / 送料無料)
- お申し込み方法 : E-mail、Fax または郵送でお申し込みください。
- お支払方法 : お届けするカレンダーに同封の郵便振替用紙でお振り込みください。
- カラー、サイズ : 縦 30cm×21cm (見開き A4 サイズ) ※2020 年版と同様のサイズです。
- 撮影 : チェルノブイリ子ども基金 佐々木真理
- デザイン : 川島進デザイン室
- 発行・制作 : チェルノブイリ子ども基金

★カレンダーの収益は、チェルノブイリと福島原発事故により被災した子どもたちの救援金にあてられます。2020 年版の収益は 81 万円でした。



## 募金・救援状況



## ●募金状況

2020年6月～9月

(単位:円)

|         | 6月        | 7月        | 8月      | 9月        |
|---------|-----------|-----------|---------|-----------|
| 募金件数    | 111       | 142       | 47      | 24        |
| 救援寄付金   | 366,278   | 638,150   | 622,300 | 3,540,524 |
| 保養費     | 46,500    | 117,000   | 15,500  | 9,000     |
| 里子支援    | 1,277,010 | 315,530   | 81,860  | 17,920    |
| ニュース購読費 | 30,000    | 56,000    | 16,000  | 2,000     |
| 合 計     | 1,719,788 | 1,126,680 | 735,660 | 3,569,444 |

9月:生活協同組合 パルシステム東京様より「平和カンパ金」  
1,275,124円をいただきました。ありがとうございます。

## ♡ 団体名一覧 ♡

(順不同・敬称略)

紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

7月 チェルノブイリ子ども基金奥羽、  
ふえみん 婦人民主クラブ、ヒーリン  
グスペースレイ

9月 生活協同組合 パルシステム東京

## ●救援状況

2020年6月～9月

(単位:円)

|                       |         |
|-----------------------|---------|
| <ウクライナ>               |         |
| ◎チェルノブイリの子どもたちの生存     |         |
| 里子支援 (半年分×6人、1年分×1人)  | 259,944 |
| 緊急支援 (半年分×2人)         | 64,986  |
| <ベラルーシ>               |         |
| ◎困難の中の子どもたちへ希望を       |         |
| 里子支援 (半年分×1人)         | 33,420  |
| ◎チェルノブイリのサイン          |         |
| 里子支援 (1年分×2人)         | 128,000 |
| ◎子どもリハビリ・健康回復センター「希望」 |         |
| 子どもの保養の交通費            | 169,620 |

## &lt;みなさまからのメッセージ&gt;

★(ニュース6月号の)豊田直巳さんのメッセージ、考えさせられました。大切なことを伝えてくださりありがとうございました。(東京都Eさん)

★ニュース6月号、4頁(支援を必要としている子どもたち)の記事が心に残りました。言葉が出てきません。(山梨県Kさん)

★チェルノブイリ原発事故から34年も経つのに、こうして次の世代まで被害が出ているという事に改めて放射能の怖さを感じます。福島事故も次の世代は大丈夫だろうか心配しています。(岡山県Fさん)

★長く地道な支援活動に敬意を表します。今後も微力ながら支援させていただきます。ありがとうございます。(岐阜県Sさん)

★基金ニュースを読むたびに心が痛くなりますが、頑張りましょう。(東京都Kさん)

ウクライナの保養に参加した子どもたち



## ★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1)郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2)ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 ○一九店(ゼロイチキューウ店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリ子ども基金

(3)三菱東京UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通 1688367 口座名:チェルノブイリ子ども基金





## 事務局から

### ■「基金ニュースレター」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースレターをお送りしています。またニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。(※ニュースレターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。)

### ■ボランティア募集

ニュース発送作業(年3回:2・6・10月):お手伝いいただける方を募集します。どなたでもお気軽にご参加ください。次回は2021年2月中旬を予定しています。日程が決まり次第、HP、ブログでご案内します。

場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ10階)

※ボランティア参加をご希望の方は、メールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前10時～午後5時。留守の場合は伝言をお願いします。

### 【日本とベラルーシ・ウクライナ間の郵便の状況】

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う航空便の減便や現地の社会状況の混乱などにより、国際郵便の引き受け、配達に大きな影響が出ています。クリスマスカードなどの発送の時期を迎えますが、郵便局のホームページや窓口で最新の情報をご確認下さい。日本の郵便局ではウクライナ宛は船便のみ、ベラルーシ宛は通常航空便と船便のみの引き受けとなっていますが(10月18日現在)、これまでに日本の里親がベラルーシの里子に航空便で送った手紙と、ベラルーシの里子が日本の里親に送った手紙双方とも配達されずに戻ってきています。ベラルーシでは、通関検査の厳格化も予想されますので、どうぞご注意下さい。



### ＊ ＊ ご協力いただいているみなさまへ ＊ ＊

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

#### すべての方に振込用紙を同封しております

事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便振込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

#### 払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で ご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

#### 「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

### ★編集後記★

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け日程が変更になりましたが、現地での保養は実施され、里子支援もこれまで通り行うことができました。ご支援いただいたみなさまに深くお礼を申し上げます。

1998年より毎年、保養期間中に現地を訪れていましたが、今年はそれが初めてできませんでした。直接会い、顔を見て話ができることの大切さをつくづく感じます。ベラルーシでは9月の大統領選後の混乱が今も続いています。人々が少しでも早く平穏な生活に戻れるよう心から祈ります。

来年も救援活動が続けられますよう、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。(事務局 佐々木)

●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行●

〒177-0041 東京都練馬区石神井町 3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://ccfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>